

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/02/01

欧州債務問題と米景気の綱引き

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	RBA理事会に注目 予想レンジ: 78.10 ~ 82.90 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	リスク回避の動きが和らぐかがカギ 予想レンジ: 60.40 ~ 65.70 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	SARBの次の一手を見極める展開 予想レンジ: 9.30 ~ 10.20 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



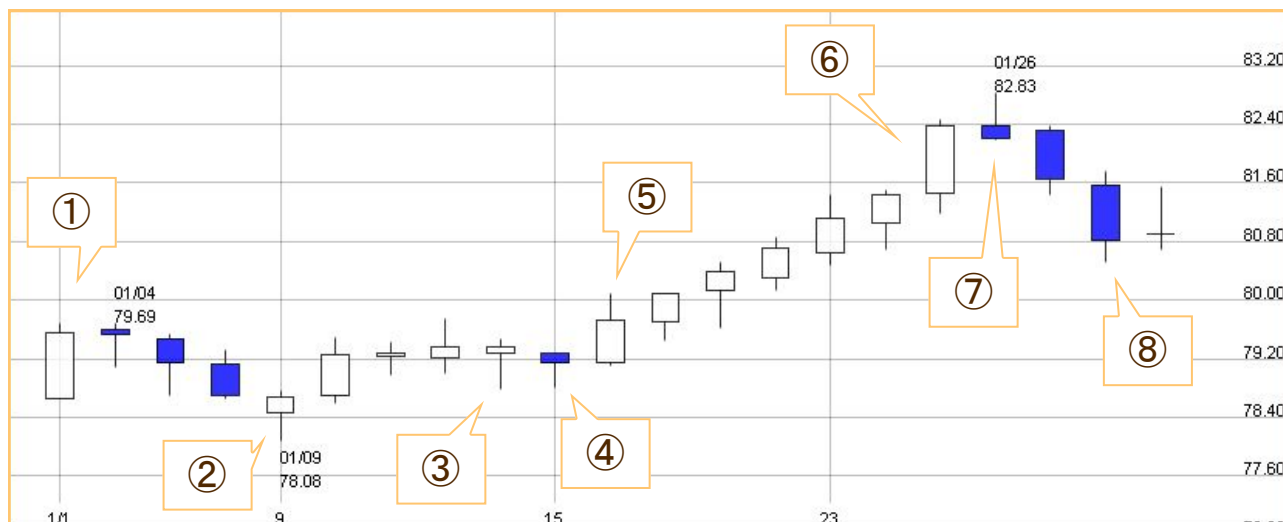
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	78.66円	82.83円	78.08円	80.90円



①

3日、東京市場ではイラン情勢の緊迫化を背景に原油相場が上昇した他、米12月ISM製造業景況指数が53.9と、予想(53.5)より強い内容を好感してNYダウ平均が一時260ドル超の上昇となったことを受け、豪ドル/円は79.68円まで上昇した。

②

9日、豪11月小売売上が予想(前月比+0.4%)や前月(同:+0.2%)を下回る同±0.0%と伝えられたことが嫌気され、豪ドル/円は78.08円まで下落した。

③

13日、民間部門の負担をめぐる交渉が難航しているギリシャの債務交換協議の一時休止が伝わり、NYダウ平均株価が100ドル超下落して始まった事を受け、豪ドル/円は78.79円まで下げた。

④

16日、前週末のNY市場終了後に格付け会社S&Pがユーロ圏9カ国の格下げを発表した事を受け、日経平均株価が寄り付きから軟調に推移。ユーロ/円が一時2000年12月以来となる97.03円まで下落した動きに連れる形で、豪ドル/円は78.80円まで下げた。

⑤

17日、日経平均株価の上昇のみならず、安住財務相の「為替介入の是非については今の為替レートの動きを見極めたい」等の発言を受けて政府・日銀による円売り・ユーロ買い介入への期待が高まった他、中国第4四半期国内総生産(GDP)が前年同期比+8.9%と予想(+8.7%)より強い内容となった事を受け、同国と貿易的結びつきが強い豪経済にとってプラスとの見方も重なり、豪ドル/円は上昇した。

⑥

25日、豪第4四半期消費者物価指数が前年比+3.1%(予想+3.3%、前回+3.5%)となった事を受け、豪ドル/円は20銭弱下落。しかし、基調インフレ率は同+2.6%(予想+2.4%、前回2.55%)と伝えられると、RBAの追加利下げ観測が後退して豪ドル/円は反発。その後、米FOMC声明で「2014年後半まではFF金利を異例の低水準とする事が正当化される可能性が高い」と伝えられると、米低金利政策の長期化観測からNYダウ平均が上昇した。豪ドル/円はこの株高を受けて82.46円まで値を上げた。

⑦

26日、露中銀筆頭副総裁が「2月初めから豪ドル資産の購入を開始する可能性がある」などと発言した他、米12月耐久財受注が前月比+3.0%と予想(+2.0%)を上回る伸びとなった事を受けて時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、豪ドル/円は昨年11月1日以来となる82.83円の高値を記録した。

⑧

30日、ギリシャ情勢の不透明感に加え、ポルトガルもギリシャと同様に追加支援が必要になるとの見方から、同国の国債利回りがユーロ導入以来最高水準まで上昇した。これを嫌気して欧米株が軟調に推移すると、豪ドル/円は80.51円まで下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

1月の豪ドル/円相場は78.08円～82.83円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.9%の上昇(豪ドル高・円安)となった。月初は欧州債務不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも、中旬から後半に入り昨年12月に欧州中銀(ECB)が実施した3年物資金供給オペが浸透してイタリアやスペインなど欧州主要国の国債利回りが低下した他、ギリシャの債務交換交渉がまとまるとの期待感を背景に、リスク回避の動きが和らいだ事を受けて上昇した。

2月の豪ドル/円相場も、欧州債務問題がポイントとなりそうだ。1月はイタリアやスペイン国債の大量償還・借り換えに対する不安を始め、ギリシャのデフォルト(債務不履行)懸念やポルトガルの追加金融支援要請観測の浮上など、欧州の債務不安をあおるような材料が相次いだ。同問題の根深さを考えると、欧州債務懸念が強まる場面ではリスク回避の動きが先行しやすく、豪ドル/円の上値を抑えそうだ。

豪州では、7日に豪準備銀行(RBA)理事会が予定されている。金利先物市場では0.25%の利下げがほぼ織り込まれており、今回の理事会で0.25%の利下げが行われたとしても、市場ではそれほど意外感はなく受け止められ、相場への影響は限られよう。むしろ同時発表の声明文に注目であり、12月のように追加利下げの余地があることを示唆するようだと、豪ドル/円は売り優勢の展開が予想される。

ただし、NYダウ平均が13000ドルの節目を突破して上値模索の機運が高まる場面では、株高を背景にリスクを積極的に取る動きから、豪ドル/円が堅調に推移する事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 78.10～82.90円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

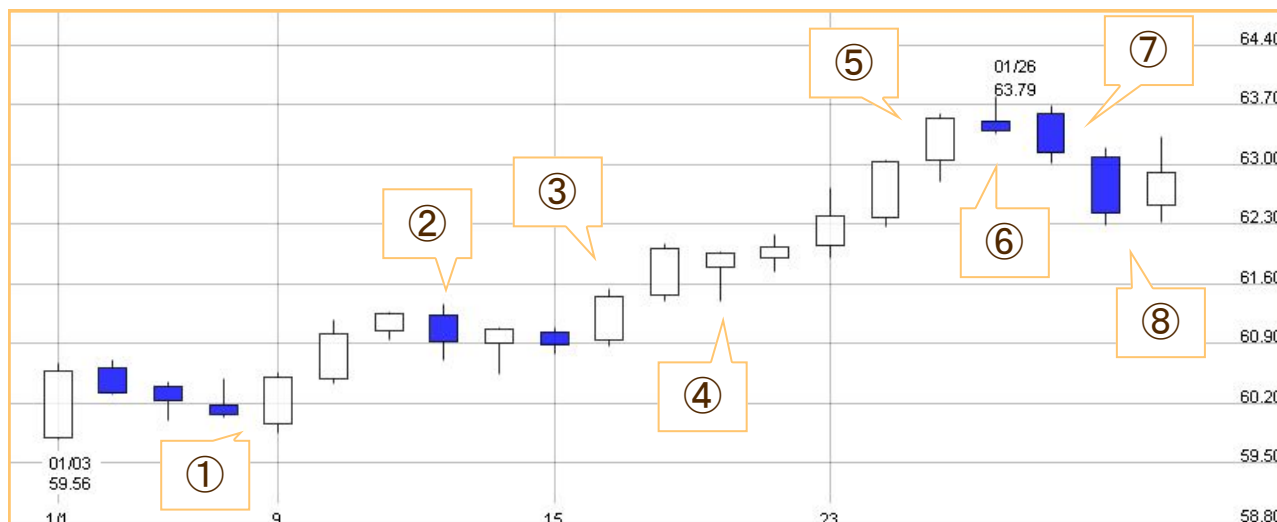
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(水)	第4四半期豪住宅価格指数	2/14(火)	日銀金融政策決定会合(13日～)
	1月米ISM製造業景況指数		1月米小売売上高
	1月米ADP全国雇用者数	2/15(水)	2月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
2/2(木)	12月豪住宅建設許可件数	2/16(木)	1月豪雇用統計
	12月豪貿易収支	2/17(金)	1月米消費者物価指数
	バーナンキ米FRB議長議会証言	2/20(月)	ユーロ圏財務相会議
2/3(金)	1月米雇用統計	2/21(火)	RBA議事録
	1月米ISM非製造業景況指数	2/25(金)	G20財務相・中央銀行総裁会議
2/6(月)	12月および第4四半期豪小売売上高	2/29(水)	第4四半期豪民間設備投資
2/7(火)	RBAキャッシュターゲット		1月豪小売売上高
2/9(木)	1月中国消費者物価指数		ECB3年物オペ入札
	欧州中銀金融政策発表		2月米シカゴ購買部協会景況指数
2/10(金)	RBA四半期金融政策報告		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	59.79円	63.79円	59.78円	62.91円



①

9日、独誌が7日に「国際通貨基金(IMF)はギリシャの財政再建や債務削減を遂行する能力に対して、信頼感を失いつつある」と報じた事や、今週実施予定のスペインやイタリアの国債入札への警戒感からユーロ/円でユーロ売り・円買いが優勢となった他、NZ11月貿易収支が3.08億NZドルの赤字と予想(3.00億NZドルの赤字)より弱い内容となった。これらを受け、NZドル/円は59.84円まで下げた。

②

12日、中国12月消費者物価指数の発表を控え、インフレ率の鈍化により金融刺激策が採られるとの観測を背景に、仮にインフレ率の鈍化が示されて金融刺激策が採られる場合、中国と貿易的つながりの深いNZ経済にとってもプラスとの見方からNZドル/円は61.35円まで上昇した。

③

17日、スペイン国債が好調な入札となった事を受けて欧州株が上昇した事を手がかりに、NZドル/円は61.53円まで値を上げた。

④

19日、NZ第4四半期消費者物価指数は前期比-0.3%、前年比+1.8%と予想(+0.4%、+2.6%)より弱い内容となった。これを受けてNZ準備銀行(RBNZ)の利上げ観測が後退、NZドル/円は取引開始直後に前日終値から50銭以上急落した。

⑤

25日、米連邦公開市場委員会(FOMC)は声明で「2014年後半まではFF金利を異例の低水準とする事が正当化される可能性が高い」と伝え、米低金利政策の長期化観測を受けてNYダウ平均が上昇した事を背景に、NZドル/円は上昇した。なお29時にNZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを発表したが、事前予想通りであった事から、市場の反応は限定的であった。

⑥

26日、「ギリシャの債務交換交渉で民間債権者は交換後の新発債の表面利率を3.75%に修正した案を提示」との一部報道を好感して欧州株が上昇。NZドル/円は株高を背景に63.79円の高値を付けた。

⑦

27日、NZ12月貿易収支が3.38億NZドルの黒字(予想:0.50億NZドルの赤字、前回:3.08億NZドルの赤字)となった事を受け、NZドル/円は63.68円まで上げた。ただ、NZ財務相が2014/15年の財政黒字見通しについて「3-5億NZドル」と昨年5月の予算案で提示した13億NZドルから減少するとの見通しを示した他、NZ準備銀行総裁の「市場では向こう1年間の利上げを予想していない」との発言も材料視され、NZドル/円は63.32円まで下げた。

⑧

30日、ギリシャ情勢の不透明感に加え、ポルトガルもギリシャと同様に追加支援が必要になるとの見方から、同国の国債利回りがユーロ導入以来最高水準まで上昇した。これを嫌気して欧米株が軟調に推移すると、NZドル/円は62.29円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

1月のNZドル/円相場は59.78円～63.79円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.1%の上昇(NZドル高・円安)となった。月初は欧州債務不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも、中旬から後半に入り昨年12月に欧州中銀(ECB)が実施した3年物資金供給オペが浸透してイタリアやスペインなど欧州主要国の国債利回りが低下した他、ギリシャの債務交換交渉がまとまるとの期待感を背景に、リスク回避の動きが和らいだ事を受けて上昇した。

2月のNZドル/円相場も、欧州債務問題がポイントとなりそうだ。1月はイタリアやスペイン国債の大量償還に対する不安をはじめ、ギリシャのデフォルト(債務不履行)懸念やポルトガルの追加金融支援要請観測の浮上など、欧州の債務不安をあおるような材料が相次いだ。同問題の根深さを考えると、欧州債務懸念が強まる場面ではリスク回避の動きが先行しやすく、NZドル/円の上値を抑えそうだ。

NZ国内を見ると、金融政策発表といった大きなイベントはないものの、先月に入り黒字予想額を下方修正したとはいえ、2014/15年度での財政黒字化見通しを維持している他、(中期的視点では)遅れているカンタベリー地区の震災復興期待を重ねると、欧州債務問題が和らいでリスク回避の動きが後退する場面では、NZドル/円は豪ドル/円以上に堅調に推移することも考えられる。

なお、ボラード総裁は先月末、9月25日の任期切れをもって退任する意向を明らかにしている。本稿執筆時点では次期総裁は未定であるものの、総裁の交代によって今後の金融政策に変化が生じる可能性は否定できない。今後の報道には注意したい。(川畑)

(予想レンジ: 60.40～65.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

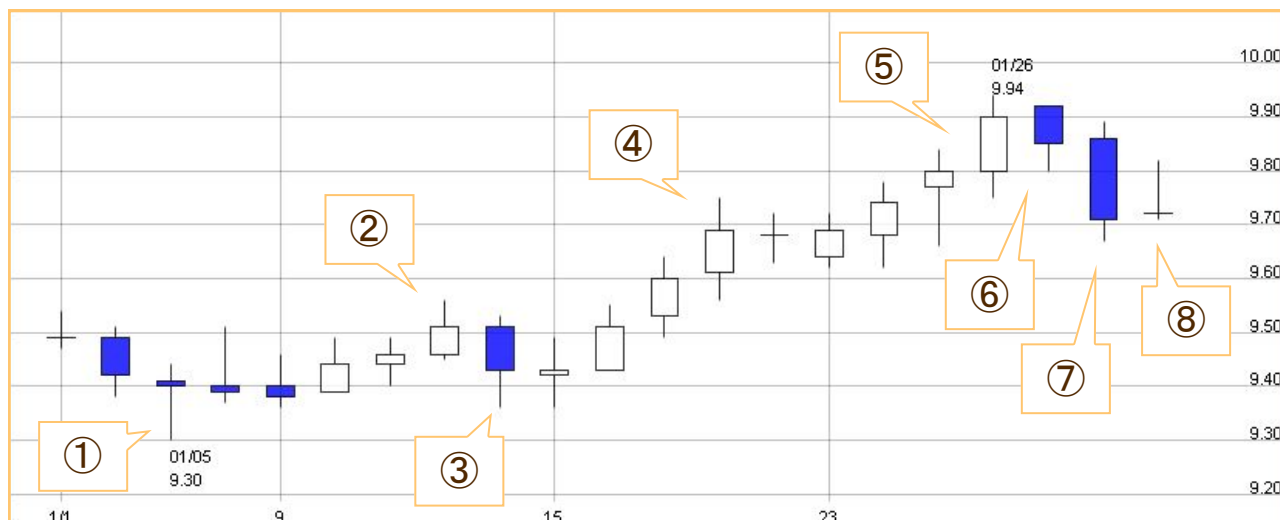
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(水)	1月米ISM製造業景況指数	2/14(火)	第4四半期NZ小売売上高指数
	1月米ADP全国雇用者数	2/15(水)	2月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
2/2(木)	バーナンキ米FRB議長議会証言	2/17(金)	ボラードRBNZ総裁講演
2/3(金)	1月米雇用統計		1月米消費者物価指数
	1月米ISM非製造業景況指数	2/20(月)	RBNZインフレ期待(2年間)
2/7(火)	RBAキャシュターゲット		ユーロ圏財務相会議
2/8(水)	第4四半期NZ失業率		第4四半期NZ生産者物価指数
2/9(木)	1月中国消費者物価指数	2/25(金)	G20財務相・中央銀行総裁会議
	欧州中銀金融政策発表	2/27(月)	1月NZ貿易収支
2/14(火)	日銀金融政策決定会合(13日～)	2/29(火)	ECB3年物オペ入札
	1月米小売売上高		2月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 1月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.49円	9.94円	9.30円	9.72円



- ① 5日、この日行われる仏国債入札への警戒感や、欧州金融機関の資本調達懸念などから欧州株が軒並み軟調に始まると、リスク回避の動きが強まってランド/円は9.30円まで下落した。
- ② 12日、スペインとイタリアの国債入札が順調に消化され、国債利回りが大きく低下した事を受けて欧州株が一段高となると、リスク回避の動きが和らぎランド/円は9.56円まで上昇した。
- ③ 13日、格付け会社フィッチは南アフリカの厳しい雇用状況、弱い経済成長などの国内経済の構造的問題を理由に、同国の長期信用格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」へと引き下げた。これを受け、ランド/円は9.36円まで急落した。
- ④ 18日、17時に南ア12月消費者物価指数が前年比+6.1%（予想：+6.3%、前回+6.1%）と発表され、20時に南ア11月実質小売売上高が前年比+6.8%（予想：+7.5%、前回+7.4%→+7.5%に修正）と発表されたが、いずれも市場の反応は薄かった。
- ⑤ 19日、南ア準備銀行（SARB）は政策金利の5.50%据え置きを決定。同時に発表された声明にて、マーカス総裁は「インフレは2012年はSARBの目標（年+3～6%）を上回っているが、2013年1-3月期には目標圏内に低下する見込み」との見解を示すと共に、12年度の経済成長見通しを従来の前年比+3.2%から+2.8%へ、13年度の見通しを+4.2%から+3.8%へと引き下げた。これにより、利上げ観測が台頭するには至らず、ランド/円相場への反応は限られた。
- ⑥ 26日、「ギリシャの債務交換交渉で民間債権者は交換後の新発債の表面利率を3.75%に修正した案を提示」との一部報道を好感して欧州株が上昇した他、米12月耐久財受注が前月比+3.0%と予想（+2.0%）を上回る伸びとなった事を受けて時間外のNYダウ平均先物が上昇した。これらを受け、ランド/円は昨年11月4日以来となる9.94円の高値を記録。なお同日に発表された南ア12月生産者物価指数は前年比+9.8%（予想：+10.0%）と伝えられたが、市場の反応は薄かった。
- ⑦ 30日、ギリシャ情勢の不透明感に加え、ポルトガルもギリシャと同様に追加支援が必要になるとの見方から、同国の国債利回りがユーロ導入以来最高水準まで上昇。これを嫌気して欧米株が軟調に推移すると、ランド/円は下落。その後9.67円の安値を付けた。
- ⑧ 31日、南ア12月貿易収支は47億ランドの黒字（予想：16億ランド赤字）と伝えられたが、市場の反応は薄かった。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

1月のランド/円相場は9.30円～9.94円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.6%の上昇(ランド高・円安)となった。月初は欧州債務不安からくるリスク回避の動きを受けて弱含むも、中旬から後半に入り昨年12月に欧州中銀(ECB)が実施した3年物資金供給オペが浸透してイタリアやスペインなど欧州主要国の国債利回りが低下した他、ギリシャの債務交換交渉がまとまるとの期待感を背景に、リスク回避の動きが和らいだ事を受けて上昇した。

2月のランド/円相場は、先月に続いて欧州債務問題がポイントとなる。欧州債務問題がポイントとなりそう。1月はイタリアやスペイン国債の大量償還に対する不安をはじめ、ギリシャのデフォルト(債務不履行)懸念やポルトガルの追加金融支援要請観測の浮上など、欧州の債務不安をあおるような材料が相次いだ。同問題の根深さを考えると、欧州債務懸念が強まる場面ではリスク回避の動きが先行しやすく、ランド/円は上値の重い展開となりそう。

先月、SARB金融政策発表時の声明では、インフレが進行する中で国内景気の減速を指摘した。市場ではSARBは当面の間、金利を据え置くと見られているが、国内景気の減速懸念が強まるようだと、SARBの利下げ観測が台頭する可能性は否定できない。SARBの次の一手を見極める上で、7日の南ア第4四半期失業率を始め、22日の1月消費者物価指数と南アフリカ2012/13年予算案、28日の第4四半期国内総生産(GDP)には注目したい。(川畑)

(予想レンジ:9.30～10.20円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
2/1(水)	1月米ISM製造業景況指数	2/15(水)	2月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	1月米ADP全国雇用者数	2/17(金)	1月米消費者物価指数
2/2(木)	バーナンキ米FRB議長議会証言	2/20(月)	ユーロ圏財務相会議
2/3(金)	1月米雇用統計	2/22(水)	1月南ア消費者物価指数
	1月米ISM非製造業景況指数		南ア2012/13予算案発表
2/7(火)	第4四半期南ア失業率	2/23(木)	1月南ア生産者物価指数
2/9(木)	1月中国消費者物価指数	2/25(金)	G20財務相・中央銀行総裁会議
	欧州中銀金融政策発表	2/28(火)	第4四半期南アGDP
2/14(火)	日銀金融政策決定会合(13日～)		1月南ア貿易収支
	1月米小売売上高	2/29(水)	ECB3年物オペ入札
2/15(水)	12月南ア実質小売売上高		2月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。